2016．5.12

日中東北開発協会

**新たな中国東北振興政策に関する情報**

2016年5月10日、中国国家発展改革委員会の東北等老工業基地振興司の周建平司長は、プレス発表会で中国東北地方（遼寧省・吉林省・黒龍江省、内蒙古自治区）の全面的な振興のため、今後3年で１兆6,000億元（約27兆円）を拠出する計画を発表した。

計画ではインフラ設備、水利プロジェクト、インターネット等を主体に約130件の重点プロジェクトを実行し、東北地区を中国全土の発展を支える経済ベルトへと変貌させる方針である。これに先立ち国務院は先月４月27日、『中国共産党中央・国務院の東北地区等旧工業基地の全面振興に関する若干の意見』(以下、『意見』)を公布している。

席上、同司長は、今回の東北振興政策のポイントは経済と産業の構造転換であるとし、今後建設を進める５大基地として①先進的な設備製造産業基地②重要技術設備の戦略基地③国家の新型原材料基地④現代農業の生産基地⑤重要技術の研究開発基地を挙げ、現在、重点プロジェクト等を各省区と調整中で、関連する３カ年計画を策定中であると述べた。

上述の『意見』では、今後の東北地区の改革において、2020年を目途に、①産業のミドル・ハイエンド化、②自主イノベーションと科学研究成果の技術移転能力の向上、③新型工業化、情報化、都市化、農業近代化の協調発展に向けた新たな枠組みの形成、④住民の所得の増加率とＧＤＰ成長率を同率にすること、⑤資源が枯渇して産業が衰退した地区の発展モデルの転換で、それぞれ成果を上げることを目標としている。また、国有企業の退職者が多い東北地区において、養老保険などの民生分野で財政資金を同地区に優先的に振り分け、住民生活の保障・改善を図るとしている。ちなみに東北３省の2015年のＧＤＰ成長率は全国で最低位にあり、吉林省、黒龍江省、遼寧省の今年の第１四半期のＧＤＰ成長率は前年同期比で、それぞれ6.2％、5.1％、マイナス1.3％であった。

以　上